

[ アフターケアの方向性 ]

「開発領域の拡大と新しい民生商材の開発」  
に向け、内部に組織化、準備室設置へ。

試案として——

“日野自動車らしさ”  
を開発コンセプトとする、  
開設への事業部→準備室へ。

“ハイテク立国・日本”の経緯 1985年前後——  
仮称「日野自動車らしさ 開発組織」(過去事例)

—日本のハイテク[商材と街]開発 成功例  
「小売流通G×日本が誇る製造業群」が  
「流通エンジニアリング事業部」を開設・実施。

日野自の開拓理念による車と企業社会への開発横断(日野自、トヨタG、他小売等)によって、斯界(しかい)をリード、挑戦する開発・推進部隊。

日野自の創始より100年を振り返り、これからの100年を視て実現化させる事業部。  
「環境・車・技術・街づくり」に力点。

「信頼性ある技術と開発力、市場で得られるマーケットバリエーション、持続可能な環境・エネルギー都市」への開拓。

1910年代～ 日本で初めての、民生飛行機開発+自動車開発を行った、  
日野自(瓦斯電)の創始・陣頭指揮者 星子勇による基本理念:

「社会情勢に即した技術トレンドを明らかにし、情報を世界に求め、  
常に斯界(しかい)をリードする製品に挑戦し、開發生産につなげ、  
人類社会に貢献する。」

**【アフターケアの方向性】**

「開発領域の拡大と新しい民生商材の開発」に向け、内部に組織化。

“日野自動車らしさ”を開発コンセプトの、仮称「**開発組織**」の主な役割:

**1. 民生化商材の開発・販売——日野自・トヨタGを横断・集約。  
グループ外事業者も参画。**

- 日野自・トヨタGを横断して「環境—車—エネルギー—街」への、オートアプローチからの新しいビジネス内容の開拓と、新しい商品開発・販売を進める。
- 省エネを柱の開発技術を横断、民生化商材の開発・販売を主テーマに、本跡地開発内へ、日野自・トヨタG横断による事業者を集約する。

**2. 省エネ車(FCV・水素他)開発力を、総合開発力、省エネ街づくり開発力へ。**

- 日野自の企業理念を軸にしての総合的な街づくり開発計画を行う。
- FCVを柱とする省エネ車の開発力を、「街への総合開発力」、「省エネ・マネジメント力」に向かわせ、必要となる商品を市場・社会へ提供する。

**3. 当事業部を核の自主事業と企業ミュージアム。**

- “日野自(前身・瓦斯電)の創設より100年、これからの100年” に向けての自主事業を、当事業部を核として行う。  
同自主事業は、跡地計画の核として、「企業ミュージアム(日野オートプラザ)」の移設に併行させる。  
→「車販売」、「物販」、「展示・ショウビジネス」を行い、またファミリーを核とする一般消費者、及び企業研修他への「エデュテインメント事業」へ。

**4. オリンピック事業へのビジネス導入。**

- 跡地開発内での「環境—車—エネルギー—街」を切り口の新しい開発物を、2020年東京オリンピック事業へビジネス導入させる。